

コープこうべ「地区交流先遣隊」被災地を巡る

発災からまもなく8カ月目を迎える11月1日。コープこうべの職員や組合員39人が「地区交流先遣隊」として被災地に入り、みやぎ生協の各ボランティアセンター(県北・仙南・仙台・石巻)が主催する、喫茶などのふれあい活動に参加しました。「地区交流先遣隊」とは、今後、被災地への継続的な支援を行なうにあたって何ができるかを、現地の方との交流を通して考える、コープこうべの取り組みです。

「つながろう」編集部は県北VCのバスに同行し、気仙沼市・鹿折中学校グラウンドの仮設住宅で行なわれた、県北VCと市民グループ「青空エコカフェ」の皆さんによる「冬をぽかぽか暖かく過ごそう さわやかお茶会&冬を暖かく過ごすヒント」、おゆずり会などを取材し、いまだにがれきが大量に残る市内をご案内していただきました。



コープこうべ「地区交流先遣隊」のみなさん。

仙南VCは名取市内の仮設住宅のふれあい喫茶で、入浴剤づくりと冬の暖かい暮らし方の情報交換、仮設住宅周辺のゴミ拾いや草取り、被災した閑上地区などの視察を行いました。石巻VCは石巻市内でのふれあい喫茶とおゆずり会、女川町地区などの視察を実施。そして仙台VCはふれあい喫茶と商品学習会「なべを食べよう」に参加して岡田・荒浜・閑上地区などを視察しました。

県北VC一行は、仙台からバスで南三陸町を通過して気仙沼市内へと約3時間かけて移動しました。車窓から見える被害の状況について、みやぎ生協生活文化部小澤義春部長が丁寧に解説してくださり、あらためて震災と津波の恐ろしさを痛感しました。

前日に神戸を発ち、バスに13時間揺られて宮城県に入られた先遣隊の皆さんですが、疲れた表情も見せず、バスを降りてから鹿折中学校グラウンドまでの長い坂道を歩いて登りました。

学習会では、断熱シートやすきまテープの有効活用の仕方や、暖房器具とともに扇風機を使って室内の空気を循環させること、浴槽のお湯を残して室内の加湿に使うことなど、冬を暖かく過ごすさまざまなヒントが紹介されました。

学習会のあと行なわれた「ふれあい喫茶」では、仮設住宅にお住まいの方へ、コープこうべ組合員の手編みのひざかけや靴下、PBの「COOP'S バームクーヘン」が手渡されました。また、仮設住宅の自治会長さんの歌に手拍子をあわせたり、参加された高齢者の被災時の体験などに耳を傾けました。

参加した山上美恵子理事(第2地区本部)は、「まずは現地を見たい、皆さんの声を聞き

たいと思い、参加いたしました。今回の震災と阪神・淡路大震災では、違うところも多いのではないのでしょうか。『私たちはこうだったから』『こうやって復興したから』と、『神戸の経験』を押しつけるのではなく、今、みやぎの皆さんが『必要なもの』をお聞きして協力したいです。物資を差し上げたり、売ったりするのは簡単ですが、本当に必要なものは何でしょうか？ 息の長い支援を続けるために、『今度はこうしてほしい』『あれがほしい』と遠慮なく言っただけの関係を築きたいですね。こうした活動には、生協という存在はとても重要で、『被災地に生協あり』と誇りに思っています」と話していました。

小澤部長ほかみやぎの職員の方々は、「今後の課題は、こうしたお茶会などの場に参加してこない方などへのケア」と指摘されていました。「特に奥様を亡くされた高齢の男性は、こうした場にはなかなか参加されません。どのようにお誘いすればいいのか試行錯誤ですね」とのことでした。

学習会のあとは鹿折の仮設住宅を出て気仙沼市内を視察しました。たくさんの商店や銀行、魚問屋さんなどがあつたかつてのメインストリートも、かろうじて残った看板や鉄骨で以前の面影がうかがえる程度です。

お茶会と学習会の後は、被害の甚大な魚町、南町、みなと町、魚市場、幸町、本郷の各地区を通して「みやぎ生協 メンバー集会室ぽけっと」に向かいました。

市内は津波で流された自動車が山と積まれ、ところどころには大型の漁船も打ち上げられています。「一艘だけをモニュメントとして残そうというお話もあるのですが、『悲しいことを思い出すので、早く撤去してほしい』という声もあり、難しいですね」と、県北ボランティアセンターのスタッフ・菊地ひろ子さん。歴史的な建造物であった魚問屋のご実家を跡形もなく流されたそうで、時々声をつまらせながらいろいろなお話をしてくださいました。

「ぽけっと」で、理事さんやメンバー（組合員）さんが用意してくださったお寿司と豚汁、ゆずの香り的大根の浅漬けの昼食をいただきました。「ぽけっと」は、みやぎ生協の施設ですが、津波と地震の影響を受けなかったため、発災直後からメンバー（組合員）さん以外の地域の方も使えるように開放したそうです。

昼食後の交流を終えて仙台へ。車内で地元のケーブルテレビ会社・K-NET 気仙沼ケーブルネットワークが制作した『東日本大震災～3.11 気仙沼の記録～第1巻』を視聴しました。大きな揺れと津波、そして火災のおそろしさを改めて見せていただきました。

仙台に戻り、18時からアークホテル仙台にて夕食を兼ねたみやぎ生協役職員との交流会が行なわれました。コープこうべの秦正雄常務理事は「今回は短い交流でしたが、これからも続けたいと思います。阪神淡路のときには、多くのご支援をいただきました。同じ被災地として、神戸の経験が今後の宮城の発展の力になればと願っています」とあいさつしました。